

東京言語研究所

集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開講しております。〈集中講義〉は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

〈演題〉 意味の科学はどこまで可能か

----- 曖昧表現の説明理論を求めて -----

〈講師〉 西山 佑司 氏 (慶應義塾大学名誉教授)

〈日時〉 2019年9月14日(土) 13:00~18:00 (90分講義×3コマ)
15日(日) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

〈会場〉 東京言語研究所 (新宿区大久保 6-24-1 新宿TXビル2階)

〈参加費〉 一般 12,000 円

学生・大学院生・2019年度理論言語学講座受講生 9,000 円

〈申込み〉 ホームページ申込みフォームまたはFAXにて下記をご連絡下さい。(定数:50名)
※ 申込み受付は8月9日(金)~9月10日(火)

- ①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦Eメールアドレス
⑧区分 (2019年度理論言語学講座受講生・一般・学生) ⑨所属区分 (大学生・大学院生・
教員・会社員・その他) (上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません)

講師紹介:

慶應義塾大学名誉教授・明海大学名誉教授・東京言語研究所顧問。専門は意味理論、語用理論。マサチューセッツ工科大学(MIT)大学院哲学研究科修了(Ph.D)。主な著書は、『意味論』(1983,共著、大修館書店)、『日本語名詞句の意味論と語用論』(2003, ひつじ書房)、『談話と文脈』(2004,共著、岩波書店)、『ことばワークショップ』(2011, 共著、開拓社)、『ことばの意味とはなんだろう』(2012, 共著、岩波書店)、『名詞句の世界』(2013, 編著、ひつじ書房)など。

○ 問合せ先

公益財団法人ラポ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル 2 階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

言語には音韻、統語、意味、形態といろいろな側面があるが、それらのなかでも意味ほど親しみやすいものはない。ところが皮肉なことに、言葉の意味に対するそのような日常的な親しさが、実は、科学的な意味理論(semantic theory)の構築にとって、しばしば妨げとなっていることに注意すべきである。一例をあげよう。

(1) ピカソの絵は難しい。

を耳にすると、「ピカソが描いた絵は、難解だ」と読むのが普通であろう。ところがこれは(1)に対する解釈のひとつではあっても、この文の(言語的にコード化されている)意味ではない。「ピカソの絵」の意味を《ピカソが描いた絵》に限定するとしても、(1)に対する解釈ということで言えば、「ピカソが描いた絵は、販売するのが難しい」とか《ピカソが描いた絵は、それに保険をかけるのが難しい》など多様な解釈が可能である。これらの可能な解釈を(A)としよう。(A)に含まれる解釈がn個あるからといって、(1)の意味がn個あるとは言語学的には言わない。ところが今、あるひとが、(1)については、「ピカソが描いた絵はどれかを判断するのは難しい」という解釈(B)もあるのではないかと考えたとして、最近の意味理論研究の教えるところでは、解釈(B)は解釈(A)とは本質的に異なるとされる。結局、(1)は、解釈(A)を可能にする意味と解釈(B)を可能にする意味の二つがあり、曖昧な文だということになる。(1)のもつこの種の曖昧性は日常、気づかれることがあまりないが、妥当な意味理論はそのような曖昧性を予測・説明できなければならない。

この講義では文の曖昧性を説明するためには、どのような理論装置が必要であるかという問題を主に日本語の例を示しながら論じる。曖昧表現の説明理論を通して、文の意味を構築する目に見えない糸の存在が明らかになるであろう。それはまた、曖昧性の判断を(無意識とはいえ)可能にしている人間の言語能力の中身を浮き彫りにすることにつながるであろう。

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、ゆかいなことはあくまでゆかいに」は井上ひさしの有名な言葉であるが、わたくしは、この言葉を心に留めて講義したいと思う。(受講生は、意味論についての予備知識を必要としない。)

時間割

*進捗状況により変更の可能性があります。

- 1 文の意味と解釈、曖昧表現の例と曖昧性の素因
- 2 自由変項読みと束縛変項読み (「太郎が妹をぶった。」)
- 3 コピュラ文の曖昧性 (「私の意見は大学の意見だ。」)
- 4 存在文の曖昧性 (「花子が欲しいものはない。」)
- 5 潜伏疑問文の曖昧性 (「先週から気になっていたことがわかった。」)
- 6 名詞句の意味機能とウナギ文、tough 構文の曖昧性

14日(土)

13:00 講義—1
 14:30 講義—1 終了 休憩
 14:45 講義—2
 16:15 講義—3 終了 休憩
 16:30 講義—3
 18:00 講義—3 終了

15日(日)

10:30 講義—4
 12:00 講義—4 終了 休憩 昼食
 13:00 講義—5
 14:30 講義—5 終了 休憩
 14:45 講義—6
 16:15 講義—6 終了